



## 開発教育支援の現場から

JICA札幌で開発教育・国際理解教育実践事例ワークショップが行われました

3月4日に約50名の先生方が参加し、開発教育・国際理解教育実践事例ワークショップが行われました。これは、現在教育現場で活躍する青年海外協力隊OVや、JICAがこれまで実施してきた開発教育・国際理解教育指導者研修、出前講座、教師海外研修等の開発教育支援事業の関係者が、学校現場における実際の実践例を話し合い、その経験を共有する場として開催されたものです。

青年海外協力隊としてエクアドルに派遣された経験をもつ札幌市立三角山小学校の數野教諭からは、帰国後、自分の経験を伝えたいがなかなか実践できなかったジレンマ、朝のホームルーム等できることからはじめた経験、エクアドルのダンスを実際に体験した児童の様子などを話していただきました。

参加した先生からは、「あせらずにできることから実践していきたい」、「学校によって開発教育・国際理解教育を実践する環境が大きく異なることがよくわかった」、「一人で行うのではなく、『仲間作り』、他の先生との連携が重要だ」、「転勤等で実践の中心となる先生がいなくなつたあとも継続して取組が行われるカリキュラム作りが必要だ」等、様々な意見があげられました。

また、このワークショップには、青年海外協力隊現職教員参加制度を活用し平成18年7月から派遣される予定の先生方にも参加いただきました。これらの先生方からは、「現地での活動をがんばるとともに、今回の先生方の発表も踏まえ、帰国後の教育現場への還元という視点もあわせ持つようにしたい」といった感想が寄せられました。

(JICA札幌 酒井)



上:アイスブレークで自己紹介をする参加者  
下:ご自身の経験を話す橋詰教諭

## JICA札幌ニュース



### 新しい市民参加協力調整員と教員社会体験研修員が着任しました —札幌から—

平成18年度をむかえ、JICA札幌の市民参加協力調整員と北海道教育庁から派遣されている教員社会体験研修員が交代しました。

この4月からJICA札幌で市民参加協力調整員として勤務しております杉山です。これまで青年海外協力隊で(理科教師とシニア隊員として)、アフリカのタンザニアとザンビアで計9年間活動しました。

おかげでアフリカのことはかなり(頭ではなく体で)理解できるようになりましたが、特に日本の常識がかなり欠如しているのではと感じているところです。今後、市民参加協力調整員として、北海道における市民参加協力事業、特に草の根技術協力の推進のために、私の体験を生かしながら奮闘していきたいと思います。そのためには、いろいろな方からのご協力とご支援が不可欠ですし、私自身ももっと勉強していかなければならぬと思っています。皆さんどうか、よろしくお願いいたします。

(市民参加協力調整員 杉山)

北海道美唄工業高校に勤務し、この4月からJICA札幌で開発教育支援事業を担当することになった小幡です。今まで高等学校という枠の中での仕事が多かつた私にとって、小中学校の先生方と出会い、様々なお話を伺い出来ることは、たいへん新鮮で実りの多い経験となっています。

「交流」の出発点は「出会い」であり、出会いを大切にすることで眞の交流が生まれるのはないのかを感じています。今後、私自身が多くの方と出会い、多くのものを学び、教育の現場に戻ったときに、国際交流、国際協力の素晴らしさを伝えていけるように頑張っていきたいと思います。1年間という短い間ですがよろしくお願いたします。

(教員社会体験研修員 小幡)



### 旭川でもJICAボランティアの体験談・説明会が開催されました —旭川から—

4月22日、旭川パレスホテルでJICAボランティア説明会が開催されました。協力隊・シニア各希望者合わせて70名弱の方々に集まつていただきました。シニア海外ボランティアOBの國政さん、青年海外協力隊OGの石井さん・OBの西口さんの3名が自分の体験談を話すとともに、ルーマニアの小児エイズの患者の1枚の写真から、エイズ対策としてどのような活動を行うことができるのか考えるワークショップ「あなたが協力隊員になつたら」を実施するなど、参加者の方々に様々なポイントからシニア海外ボランティアや青年海外協力隊について考えていただきました。

旭川でも青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの体験談・説明会を年に2回開催していますので、開発途上国でのボランティア活動に関心のある方々、まだ先の話ですが、秋の体験談・説明会にご参加ください。

(国際協力推進員(旭川)鳥居)



青年海外協力隊の制度について説明をする参加者

JICA旭川デスク(国際協力推進員)の連絡先:

T E L:0166-27-1590 E-MAIL:jica-asa@atlas.plala.or.jp  
住 所:旭川市6条通10丁目 旭川第三庁舎国際交流課内



### 「持続可能な開発のための教育～環境教育を学ぼう！～」が開催されました —函館から—

3月21日(火)の春分の日に函館市中央図書館で、当別エコロジカルコミュニティーの山本幹彦理事長を講師にむかえ「持続可能な開発のための教育～環境教育を学ぼう！～」が開催されました。環境教育の基礎的なこと、環境教育と国際理解・開発教育の関係等を学ぶとともに、実際に地主、住民、開発局などの立場になって開発計画を作成するワークショップを行いました。自分自身の考え方とワークショップでの立場での考え方の違い、それぞれの立場での考え方の違いなどが、実際に計画策定を模擬的に行うことによって、また計画策定のために議論を行うことによって、多様な考え方があきらかになりました。開発の難しさを参加者は実感していました。糸をつかつてのアクティビティでは生態系のバランスや生物と自然の密接なかかわりを知り、身体をつかつて覚える教育の大切さを学んだ。

(国際協力推進員(函館)岡田)



糸を使ったアクティビティの様子。  
各参加者を鳥、水草、虫等と位置づけ、  
その深い関係を、実際に体で感じていました

JICA函館デスク(国際協力推進員)の連絡先:

T E L:0138-22-0770 E-MAIL:jicadpd-desk-hakodate@jica.go.jp  
住 所:函館市元町14-1 財團法人北海道国際交流センター内